能登半島地震の復旧活動で見た大成機工の矜持

機動性高い災害対応力

迅速な資材供給と確実な施工支援

2024年1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する大地震が発生した。地震動による地盤の隆起や津波によって、発生当初は10万戸弱が断水するなど、人々の生活に不可欠な水道インフラも大きな被害を受け、能登半島を中心とした北陸地域は混乱の渦に陥った。このような災害支援活動に必要な資材をいち早く被災現場に供給するとともに、漏水対応や仮設配管など混乱状況の中にあって早急復旧に大きく貢献した。本紙では、能登半島地震における資材の早期供給や復旧支援への取組みなど大成機工における災害対応を追った。

富山市における不断水補修弁取替工事

代表取締役社長

中村　稔

インタビュー　大成機工の使命と責任

――阪神・淡路大震災など、これまで国内を襲ってきた大地震などの自然災害に対して「管路メンテナンスのトータルコーディネーター」としてどういったサポートをこれまで行ってきましたか

1995年1月17日に発生した兵庫県南部地震とあらゆる水道事業体の要請に対応していくため、管種に対応した継手部三田分室を設置し、北陸地域の外注先への状況確認に着手し、その日のうちに漏水補修材など関係資材を緊急出荷いたしました。

――独自の災害対策マニュアルはどういった内容のものですか

災害対策マニュアルは、社長を本部長とする判断・手配すべき最低限の項目をあらかじめ明確化し、迅速な対応を行う緊急対応を行う緊急独自の判断ができるようにすることを目的に策定しました。2005年6月3日から施行開始し、今日まで随時改訂してきております。

当社ではこのマニュアルに沿って、震度6弱以上の地震発生し場合、社長を本部長とする本社災害対策本部を設置することとなっています。また三田工場は、舞鶴若狭自動車道の三田西インター入口に隣接していることから、輸送の迅速化を可能としています。

――能登半島地震において、災害マニュアルに沿って社員の行動に大きく作用したと思われますが

能登半島地震では、この災害対策マニュアルの効果が発揮されました。社員の迅速な行動や物流拠点である東京工場にも社員が参集し出荷工場と東京工場はほぼ連動する体制が構築しており、西日本地域で災害が起きたとしても、東京工場はもとより、東北支店など東日本地域を担当する本社機能が駆け付けられる体制を整備しています。

能登半島地震は2024年1月1日16時10分に発生しましたが、当社では災害対策マニュアルに沿ってニーズの分析など、現地の情報拠点としての体制を整えました。しかし、地域災害対策連絡部を設置し、資材の融通供給が図れるように、資材の調達供給部門と、情報収集・伝達部門を整えました。全員無事であることを確認しほっとしたことが停滞する恐れがあったのです。

その中で小松市と穴水町で復旧資材の流通拠点を立ち上げることができました。両市町の協力により、1月2日には小松市と穴水町の倉庫を借り受け、9日には、穴水町七尾水道課と野浄水場の倉庫を借り受け、また、不断水工事の施工お借りして、大規模な断水が続いていた奥能登地域の復旧に資材・資機材の供給を行ったことで、資材拠点として機能しました。

本社機能対策本部設置は、常時2～3人の社員が出荷・引き取りに対応しているが、現地へ向けた緊急資材拠点において、エンジニアが被災状況の確認を行ったことで、現地の復旧活動に対応した提案、調査や補修方法の提案、管工事業者向けの指導など、多岐にわたる体制を整えました。

さらに、現地へ向けた緊急資材拠点において、エンジニアが被災状況の確認を行ったことで、現地の復旧活動に対応した提案、調査や補修方法の提案、管工事業者向けの指導など、多岐にわたる体制を整えました。

――耐震化へのニーズは高まっていますか。これらニーズに対してどういった商品開発を手掛けたいとお考えですか。製品開発における経営方針についてお聞かせください

管路メンテナンスのトータルコーディネーターとして、管路ジャイアントフレックス」など常備。また、不断水工事の施工体制や、漏水修繕で切り

穴水町上野浄水場に設けられた緊急資材拠点

漏水対応でヤンジョイントSPEC00mm取付を行うエンジニア

――復興へは過半だですが、能登半島地震への初動対応に対する評価を

今回の能登半島地震において、災害対応に当たっていただきました。大変感謝しています。まさに「命の水」である水道事業に携わってきた矜持が社員のなかに根付いているのであると思っています。

これは社員だけではなく、当社のパートナー企業も同じように復旧に一致力して、当社は無事に復旧できたと思っています。

断水が解消できたことは非常に喜ばしいことですが、まだまだ復興はできていません。当社は水道事業者として、水道事業に貢献できるよう、一致団結して復旧に取り組んでいきたいと思います。

計画的な新設配管や布設替え工事に関連する製品は事業量から生産計画に反映されていただき、当社は製品の開発・設計を自社で行い、製造は外注パートナー会社で製造してもらい、それらを三田工場で組立て、検査し、搬送・納品をします。世界的企業のアセンブリやユニクロのような企業体です。当社は創業以来、これらパートナー企業と深い絆と信頼で、事業活動を展開していまして、今回の震災においても、資材搬送を担う運送会社らすべてのパートナー企業の方々も三日かからず活動していただきました。大変感謝しております。まさに「チーム大成機工」で復旧に取り組んでいます。

的確・迅速に〝チーム大成〟で対応

――能登半島地震における資材供給体制を構築していますか

給体制を構築しています。また三田工場は、舞鶴若狭自動車道の三田西インター入口に隣接していることから、輸送の迅速化を可能としています。

――能登半島地震において、災害マニュアルに沿って社員の行動に大きく作用したと思われますが

能登半島地震では、この災害対策マニュアルの効果が発揮されました。社員の迅速な行動や物流拠点である東京工場にも社員が参集し出荷工場と東京工場はほぼ連動する体制が構築しており、西日本地域で災害が起きたとしても、東京工場はもとり、東北支店など東日本地域を担当する本社機能が駆け付けられる体制を整備しています。

能登半島地震は2024年1月1日16時10分に発生しましたが、当社では災害対策マニュアルに沿ってニーズの分析など、現地の情報拠点としての体制を整えました。しかし、地域災害対策連絡部を設置し、資材の融通供給が図れるように、資材の調達供給部門と、情報収集・伝達部門を整えました。全員無事であることを確認しほっとしたことが停滞する恐れがあったのです。

その中で小松市と穴水町で復旧資材の流通拠点を立ち上げることができました。両市町の協力により、1月2日には小松市と穴水町の倉庫を借り受け、9日には、穴水町七尾水道課と野浄水場の倉庫を借り受け、また、不断水工事の施工体制や、漏水修繕で切り

早期搬送が可能――三田工場に隣接する高速道路インター入口

迅速な出荷を可能とする倉庫の自動化機能

ルポ　震災発生　どう動いたか

震災当日に資材を被災地へ出荷

□災害当日の対応□

2024年1月1日16時10分に石川県の能登半島地下16㎞、鳳凰郡穴水町の北東42㎞の珠洲市内で発生した内陸地殻地震となった能登半島地震は、マグニチュード7.6で、輪島市と宝達志水町で最大震度7を観測し、震度5以上を記録した。

大成機工は、同日17時30分に本社震災対策本部を設置し、三田工場（兵庫県三田市）は、三田分室を設置した。

被災エリアを所管する北陸営業所（石川県金沢市）は、三田分室を設置した。

これに先立ち同日17時20分に石川県の能登半島地震が発生した。

大成機工は、同日17時30分に本社震災対策本部を設置し、三田工場（兵庫県三田市）は、三田分室を設置した。

被災エリアを所管する北陸営業所（石川県金沢市）は、地域災害対策本部を設置し、社員と家族全員無事を確認した。

これに先立ち同日17時20分に石川県の能登半島地震が発生した内陸地殻地震となった能登半島地震は、マグニチュード7.6で、輪島市と宝達志水町で最大震度7を観測し、能登半島中心に大きな被害をもたらした。

大成機工は、同日17時30分に本社震災対策本部を設置し、三田工場（兵庫県三田市）は、三田分室を設置した。

被災エリアを所管する北陸営業所（石川県金沢市）は、地域災害対策本部を設置し、社員と家族全員無事を確認した。

これに先立ち同日17時20分に石川県の能登半島地震が発生した内陸地殻地震となった能登半島地震は、マグニチュード7.6で、輪島市と宝達志水町で最大震度7を観測し、能登半島中心に大きな被害をもたらした。

一方、現地での資材に関しては、地域災害対策連絡部は、三田工場（兵庫県三田市）に対して、緊急出荷の要請を行った。

同日22時ごろ、三田工場から漏水補修材料、継手関係などを緊急出荷（震災発生直後で被災状況が不明であることから、初回の出荷品は、数々の震災復旧に役立ちそうな資材をもとに、緊急資材拠点として、震災当日に備え待機）した。

［現地で資材拠点を確保］

緊急資材拠点として、震災当日から小松市上下水道局の配水場の敷地を倉庫として借用、2月6日まで集約し出荷対応に当たった。

その延べ36日間、異なる被災地域のニーズに応えるため日も休ます、物流拠点として大きな役割を担った。発生から約1カ月間はフクロジョイントなど補修材料中心に供給されていたが、2カ月目以降は仮設配管用に塩ビ管や継手や鉄押輪など仮設配管用の資材に移行していったという。

［多様な製品で復旧に貢献］

被災地の復旧には多くの災後も同製品の出荷は常に続いた。七号を使用。ヤノ工字型▽型（上向きと）とメカボリPC短管（ヤノ工字型▽型（上向きと）とメカボリPC短管（ヤノ工字型▽型（上向きと）とメカボリPC短管（